

(別紙様式4)

【キャリア形成促進プログラム認定後の公表様式】

令和4年7月20日※1

(前回公表年月日:令和3年7月10日)

キャリア形成促進プログラムの基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
日本医歯薬専門学校		昭和63年3月1日		須田 英明		〒166-0003 東京都杉並区高円寺南二丁目44番1号 (電話) 03-5377-2200			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 東京滋慶学園		昭和61年2月1日		中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3877-2211			
正規課程/履修証明プログラム		分野	プログラムの名称			開設年月日	生徒定員	修業年限・修業期間	
正規課程		商業実務	医療事務専門課程 医療事務IT学科			平成28年4月1日	40人	1年/0か月	
開講時期	前期:4月1日～9月30日まで 後期:10月1日～翌年3月31日まで					直近の修了者数※2	修了者のうち就職者数※2	修了者のうち就業者数※2	
						18人	17人	0人	
プログラムの目的		高度化、多様化される医療現場において、専門性の高い医療事務スタッフの育成・輩出が必要とされている。 当該プログラムではそのニーズにこたえるべく、医療機関において受付・会計業務等重要な役割である医療事務スタッフとして必要となる基本技術を修得し、また業務連携を通して受付業務や患者対応ができる能力を身につけることを目的としている。 なお、当該プログラムは社会人を対象とした学び直しを円滑に行うためのプログラムであり、「夜間課程」「1年制」とし学び直し等キャリア形成を図る機会を多くの社会人へ提供できる教育課程としている。 高度化、多様化される医療現場で対応できる医療事務スタッフを養成する。また、常に向上心を持ち、自己研鑽し続け、生涯働き続けられる人材となる。 その為に、医療機関(大学・総合病院、診療所、調剤薬局、歯科医院)で必要となる知識、技術を身に付け、生涯働き続けられるスキルを身につける。							
認定年月日※3									
対象とする職業の種類		大学病院・総合病院事務 一般診療所事務 医事課職員(受付事務) 看護部職員 調剤薬局事務 歯科事務			身に付けることのできる能力	■身に付けられる知識、技術及び技能 現場で求められる基礎となる医療事務業務技術・知識(医療秘書技能検定3級・2級、医事コンピュータ3級・2級)を修得する。 ■得られる能力 学内での学びから業界連携プログラムを通じ、医療事務業務で必要とされる、「実践力」「サービスマインド(ホスピタリティ)」「チームワーク力」を身につける。			
カリキュラム内容		・「医学知識Ⅰ・Ⅱ」「医療保険と関連法規Ⅰ・Ⅱ」等の専門基礎分野や「診療報酬請求事務ⅠⅡ」等の専門分野を学び、現場で求められる基礎となる医療事務業務技術・知識を修得する。 ・「導入教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「プロ養成講座Ⅰ・Ⅱ」等コミュニケーション等に関する知識、技術を学び、サービスマインド(ホスピタリティ)、チームワーク力を修得する。 ・「専門技術実践講座」「導入教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」等、学内・医療現場にて指導者の下学びを深め、医療事務業務全般を円滑に行うことができる実践力を修得する。							
総授業時数又は単位数※4		810時間	要件該当授業時数又は単位数※4	585時間	企業等連携授業時数又は単位数※4	90時間	要件該当授業時数/総授業時数※4	72%	
社会人が受講しやすい工夫		■社会人が受講しやすい工夫の内容 (例)休日・週末・早朝・夜間の開講、長期休暇時における集中開講、IT活用、経済的支援制度の整備、補講の実施、託児サービスの実施、就職サポート等 ・月曜～金曜の18時から開講としており、社会人の方が通いやすい時間割となっている。 ・学費の分納制度あり。 ・就職指導についてはキャリアセンターを設置しており、専属スタッフによるサポート体制がある。 ■修了時に付与される資格等： ※有の場合、資格等の詳細を記入							
成績評価の基準・方法		成績評価は定期試験及び臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)により行う。その評価はA・B・C・D・E・Fで行い、D以上で合格とする。 実習については実習前及び実習後教育、実習施設の評価、実習日誌及び実習後レポートを総合し評価する。 定期試験の方法は筆記試験、口頭試験、実技試験、論文あるいはレポートで行う。 試験の欠席者には追試験を、不合格者には再試験をそれぞれ一度ずつ行う。 授業科目の出席すべき日数の3分の2以上の出席に達しない者は、その授業科目について評価を受けることができない。			プログラム修了要件	各学年に修了すべき科目について試験を行い、合格者に対して当該科目の修了を認定する。本校所定の全課程修了が修了要件となる。			
当該プログラムホームページURL		http://www.ishiyaku.ac.jp							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定プログラムにおいては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 「直近の修了者数」、「修了者のうち就職者数」、「修了者のうち就業者数」(※2)
「直近の修了者数」、「修了者のうち就職者数」、「修了者のうち就業者数」の欄には、正規課程については公表年月日年度の前年度の実績人数を、履修証明プログラムについては公表年月日の時点において最後に修了者を出した直近の開講時期における実績人数を記入してください。 各実績人数は、学校が把握している範囲での数字を記入してください。
「修了者のうち就職者数」の欄には、推薦プログラム修了後に推薦プログラムの対象とする職業に就職した受講者数を記入してください。
「修了者のうち継続在職者数」の欄には、推薦プログラム受講時に在職していた企業等に推薦プログラム修了時点において引き続き在職した受講者数を記入してください。

3. 認定年月日(※3)
キャリア形成促進プログラムとしての認定年月日を記入してください。初回認定の場合は空欄としてください。

4. 授業時数又は単位数の表記(※4)
推薦プログラムが正規課程で時間制の場合は単位時間数、正規課程で単位制の場合は単位数、履修証明プログラムの場合は時間数を記入してください。

1.「対象とする職業に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携について、『高度化多様化される医療現場で対応できる医療スタッフとなる。また、自己研鑽し生涯働き続けられる人財となる』という養成目的実現にむけ、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、新たな授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。

本年度より設置した教育課程編成委員会においては、業界関係者からの意見も、より詳細に教育内容に反映させること

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され(添付教育課程編成委員会規程参照)、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっている。

また、学校運営においては教務組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、このために従い、委員会を運営する。

教育課程の編成に関する意思決定の過程は委員長(教務部長)が改善案を学校長に提出、学校長決済ののち理事会にて決議承認の上、その内容を今後の教育課程に反映させている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2021年7月10日現在

名 前	所 属	任期	種別
須田 英明	日本医歯薬専門学校 学校長	2021年4月1日～2023年3月31日	
篠田 美和	日本医歯薬専門学校 事務局長	2021年4月1日～2023年3月31日	
富田 恒雄	日本医歯薬専門学校 教務部長	2021年4月1日～2023年3月31日	
豊島 義人	日本医歯薬専門学校 医療事務IT学科 学科長	2021年4月1日～2023年3月31日	
千葉 真一	社会福祉法人 三井記念病院 シニアマネージャー	2021年4月1日～2023年3月31日	③
長面川 さより	株式会社ウォームハーツ 代表取締役	2021年4月1日～2023年3月31日	②

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①推薦プログラムが対象とする職業の属する業界全体の動向に関する知見を有する業界団体等の役職員

②推薦プログラムが対象とする職業に関連する学会や学術機関等の有識者

③推薦プログラムが対象とする職業の実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年6月27日(日) 11:20～12:30

第2回 令和4年1月16日(日) 11:20～12:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

●委員からの意見

・入学時に勉強の仕方から教える必要がある

・医療メディエーションの導入を検討してはどうか

・卒後教育として、医師事務作業補助者講座の開講で将来像を明確化

●教育課程への検討

・入学前、導入期における学習オリエンテーションの内容再検討

・医療メディエーション内容を既存科目に挿入することを検討

2.「対象とする職業に関する企業等と連携して行う授業等その他の実践的な方法による授業等が、別の定めるところにより、総授業時数の一定割合以上を占めていること。」関係

(1)企業等と連携して行う授業における連携の基本方針

社会人の学び直し機会を拡大するため、企業等との密接な連携により、最新の実務の知識等を身に付けられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保を目指す。

(2)企業等と連携して行う授業における連携内容

※授業内容は方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

医療現場の情報等に関する教育・研修を実施している企業と連携し、医療現場で必要とされている知識・技術を、演習やアクティブラーニング形式の授業を展開して修得することを目標としている。学修成果の評価についても、授業毎の理解度を測る小テストに加えて、科目目標の達成度合いを確認する定期試験を実施している。

(3)実践的な方法による授業のうち、企業等と連携して行う授業の具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
導入教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	医療従事者として勤務観・仕事観について考え、医療事務スタッフとして必要な知識・スキルを知る	武蔵野徳洲会病院 戸田中央総合病院 桐和会グループ

3.「企業等と連携して、教員に対し、対象とする職業に係る実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦プログラムの教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規定に定められていることを明記。

学園の定める教員研修規程において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めている。

中途退学防止に向けた「学生一人ひとり」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心にすえ、ファカルティ・デベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の要素が年間を通じた授業内容に反映されるよう研修を行った。

① キャリア教育の視点

② カリキュラム改善、教育技法の改善

さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議においてこの方針を共有し、シラバス内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を行っている。

(2)研修等の実績

①推薦プログラムが対象とする職業に係る実務に関する研修等

・コロナ過により、研修の開催中止にて実績なし

②指導力の修得・向上のための研修等

・2021年12月8日 2020年度滋慶教育科学学会 対象:全教職員 専門学校等における教育実践の発表を通して、自校の教育に活かす(滋慶教育科学研究所)

(3)研修等の計画

①推薦プログラムが対象とする職業に係る実務に関する研修等

研修名「医療秘書教育全国協議会 2021年度教員研修会」(連携企業等:医療秘書教育全国協議会)

期間:2022年8月※オンライン配信 対象:医療事務IT学科教職員等

内容:医療事務に係る業務が近未来的にどのように変化していくのか、最新の取り組み事例から学ぶ。また医療秘書教育の事例を検討し自校の教育に活かす。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「2022年度滋慶教育科学学会」(連携企業等:滋慶教育科学研究所)

期間:2021年12月 対象:全教職員

内容:専門学校等における教育実践の発表を通じて、自校の教育に活かす。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条の規定による評価を行い、その結果を公表していること。」「評価を行うに当たり、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」「関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者ともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に生かすことを方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	「理念・目的・育成人材像は定められているか」「社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか」他
(2) 学校運営	「理念等を達成するための事業計画を定めているか」「意思決定システムを整備しているか」他
(3) 教育活動	「教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか」「成績評価認定基準を明確化し、適切に運用しているか」「教員の資質向上への取組みを行っているか」他
(4) 学修成果	「資格・免許の取得率の向上が図られているか」「卒業生の社会的評価を把握しているか」他
(5) 学生支援	「就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか」「退学率の低減が図られているか」「保護者との連携体制を構築しているか」他
(6) 教育環境	「教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか」「学外実習等の実施体制を整備しているか」他
(7) 学生の受入れ募集	「学生募集を適切かつ効果的に行っているか」「経費内容に対応し、学納金を算定しているか」他
(8) 財務	「学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか」「私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか」他
(9) 法令等の遵守	「法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか」「自己点検・自己評価結果を公開しているか」他
(10) 社会貢献・地域貢献	「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか」「学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか」他
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

※推薦プログラムの教育効果等に対する学校関係者評価の活用状況を具体的に明記

評価結果を受け、以下の点を改善している。

・授業アンケートの更なる活用

「勉強習慣のない学生」が増えている為、習熟度に差が出てしまう傾向がある。その課題解決、国家試験合格力向上のため、授業アンケートをより細かく確認し、一人ひとりの課題を抽出した。

・キャリア教育の更なる実施

精神的に弱い学生も増えている為、学園グループのキャリア教育に対する考え方をまとめた「キャリア教育ロードマップ」を活用した。

・学生募集について

社会人で学び直しを検討している方が多く、昼間時間帯を有効に使える学び方に共感をしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2021年7月10日現在

名 前	所 属	任期	種別
小林 桂子	視能訓練士学科Ⅰ部 在校生の保護者	2021年4月1日～2023年3月31日	保護者
及川 勉	昭和第一学園 理事	2021年4月1日～2023年3月31日	高等学校
糟谷 一	杉並区町会連合会 常任理事	2021年4月1日～2023年3月31日	地域
下里 保奈美	歯科衛生士学科Ⅱ部 卒業生	2021年4月1日～2023年3月31日	卒業生
山内 豪之	杉並区歯科医師会 会長	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
富田 基子	東京都歯科衛生士会 顧問	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
今野 公士	医療法人社団インフィニティメディカル近藤眼科 院長	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
長面川 さより	株式会社ウォームハーツ 代表取締役	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
篠原 陽子	日本チェーンドラッグストア協会 ヘルス・アンド・ビューティケア人材育成センター 事務局長	2021年4月1日～2023年3月31日	業界

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.ishiyaku.ac.jp>

公表時期: 2022年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育内容の確認、関係者との連携及び協力の推進を図る為、企業等の学校関係者(講師・臨床実習担当者等)に対する具体的な情報提供方法として契約説明会・講師面談・講師会議・臨床実習担当者会議等を開催し、下記にあたる「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に沿った項目の説明を行っている。
また、ホームページ上でも教育内容をはじめとする情報公開を恒常的に行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	所在地、連絡先、開校の目的、学校の沿革、建学の理念、校長名
(2)各学科等の教育	定員、養成目的、教育システム、教育スケジュール、資格取得一覧、主
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、就職支援の取り組み
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動、教育環境
(6)学生の生活支援	入学前サポート、在学中のサポート、その他のサポート
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金情報、学費サポートシステム、学費減免制度
(8)学校の財務	監査報告書、東京滋慶学園収支計算書
(9)学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価委員会報告書
(10)国際連携の状況	海外研修
(11)その他	災害時非常時の対応、防災訓練・防災知識

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:<http://www.ishiyaku.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療事務専門課程 医療事務IT学科) 令和2年度												
分類			授業科目名	授業科目概要	授業時 数/単位 数	授業方法			実践的授業方法の種			
必修	選択必修	自由選択				講義	演習	実験・実習・実技	企業連携	グループワーク	実務家授業	インターンシップ
○			導入教育Ⅰ	目的意識を高め、医療従事者に必要な知識やスキルを確認する。同じ目的を持った仲間との相互支援的環境を作る。	30		○					
○			導入教育Ⅱ	医療従事者としての勤労観、仕事観について考え、医療事務スタッフとして必要な知識、スキルを知る。	30		○					
○			導入教育Ⅲ	医療事務スタッフとして働くために必要な知識・技術を習得する。	15		○					
○			キャリア教育講座Ⅰ	医療人に必要な「前に踏み出す力(action)」「考え抜く力(thinking)」「チームで働く力(teamwork)」を自ら考える。	30	○			○	○		
○			キャリア教育講座Ⅱ	医療人に必要な「前に踏み出す力(action)」「考え抜く力(thinking)」「チームで働く力(teamwork)」を自ら考える。	15	○				○		
○			プロ養成講座Ⅰ	医療人として必要な知識、スキルを知り、学習の目標設定をおこなう。	30		○			○		
○			プロ養成講座Ⅱ	医療人として必要な知識、スキルを知り、学習の目標設定をおこなう。	15		○			○		
○			IT技術Ⅰ	医療機関で求められるPC関連の職業能力を習得する。	15		○					
○			IT講座Ⅱ	医療機関で求められるPC関連の職業能力を習得する。	30		○					
○			英会話	医療機関の接遇で必要なコミュニケーションスキルとして、医療の場面を想定した英会話を学ぶ。	15	○				○		
○			医療保険と関連法規Ⅰ	医療に関する法律・各種医療券の制度を知る。	30	○					○	
○			医療保険と関連法規Ⅱ	医療に関する法律・各種医療券の制度を知る。	15	○					○	
○			医療機関の組織・運営Ⅰ	医療機関の事業目的、組織、機能及び組織運営に関する用語、理論、役割及び社会的使命を知る。	30	○			○			

			医療機関の組織・運営Ⅱ	医療機関の事業目的、組織、機能及び組織運営に関する用語、理論、役割及び社会的使命を知る。	15	○			○			
			医療倫理	医療現場に必要な、患者対応力を身につけ、医療人として相応しい倫理観とは何かを考える。	15	○				○		
			医学知識Ⅰ	人体の構造・機能・病態の概要を理解する。	45	○					○	
			医学知識Ⅱ	人体の構造・機能・病態の概要を理解する。	15	○					○	
			診療報酬請求事務演習Ⅰ	診療報酬請求の基礎を理解し、外来レセプト作成に必要な知識を学ぶ。	90		○		○		○	
			診療報酬請求事務演習Ⅱ	診療報酬請求の基礎を理解し、入院・外来レセプト作成に必要な知識を学ぶ。	45		○		○		○	
			診療報酬請求事務演習Ⅲ	診療報酬請求の基礎を理解し、入院・外来レセプト作成に必要な知識を学ぶ。	30		○		○		○	
			医事コンピュータⅠ	外来業務に関わる医事コンピュータの知識や技術を習得する。	60		○				○	
			医事コンピュータⅡ	入院・外来業務に関わる医事コンピュータの知識や技術を習得する。	30		○				○	
			医療情報管理	医療機関で取り扱われている情報が、どのように活用されているかを現場のケースから学ぶ	15		○				○	
			電子カルテ	電子カルテの仕組みと役割を理解し操作方法を理解する。電子カルテ技能検定合格に必要な知識を習得する。	15		○				○	
			専門技術実践講座	それぞれの医療機関毎に必要な専門的技術や知識を強化するための、実践的演習をおこなう。	15		○				○	
			資格検定対策講座Ⅰ	医療秘書技能検定3級、医事コンピュータ3級受検の準備学習をする。	45		○					
			資格検定対策講座Ⅱ	医療秘書技能検定3級、医事コンピュータ3級受検の準備学習をする。	15		○					
			資格検定対策講座Ⅲ	医療秘書技能検定2級、医事コンピュータ2級受検の準備学習をする。	45		○					
			資格検定対策講座Ⅳ	医療秘書技能検定2級、医事コンピュータ2級受検の準備学習をする。	15		○					
合計授業時数/単位数					要件該当授業時数/単位数							
810					615							